

## 患者背景に応じた薬剤選択、服用方法を提案した例

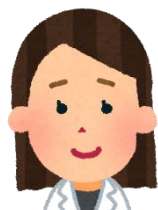
プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、患者の背景に応じた薬剤選択、服用方法を提案することでコンプライアンス向上に貢献できたプレアボイドを紹介いたします。

### 患者背景

▶化膿性関節炎に対し加療目的にて入院

【新規開始予定薬】

ケフラルカプセル 250mg  
or  
L-ケフレックス小児用顆粒



医師

小児の患者さんで薬が苦手で飲めない子がいるのですが、点滴から内服薬に切り替える予定なんです。内服薬はケフラルカプセルか、ケフレックス顆粒を考えています。飲みやすい方にしようと思うのですが、味とかはどうでしょう？



看護師

そもそも薬に抵抗があるみたいで、前に内服薬が処方されたときは、まず薬を飲んでくれなかったんです。薬を飲んでもらう何かいい方法はないでしょうか？



薬剤師

ケフレックス顆粒は、甘味がついている薬剤なので、薬剤の味が苦手な子にも飲みやすい薬剤だと思います。

なるほど。では、できるだけ量(嵩)を少なくして、プリンやチョコレートなどで挟んで飲んでみるのはどうでしょう。ケフラルカプセルを脱カプセルすれば、ケフレックス顆粒よりも1回に飲む量(嵩)を減らせるので、味も見た目も変えやすいと思います。



では、ケフラルカプセルを処方してみましよう。

その後、ケフラルカプセルが内服開始となり、脱カプセルしたケフラルをチョコレートソースと一緒に服用することで服用継続できた。

患者の背景に応じた薬剤選択、服用方法を提案することでコンプライアンス向上に貢献できた。